

製品名: RBMXL2 ウサギモノクローナル抗体

カタログ番号: AMRe84806

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB, ICC, IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	-
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05% アジ化ナトリウム、0.05% 保護タンパク質、50% グリセロールを含む PBS で精製された抗体。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:2000, ICC 1:50-1:200, IP 1:20-1:50
分子量	43 kDa

抗原情報

遺伝子名	RBMXL2
別名	HNRNPGT; HNRPGT; RBMXL2;; hnRNP G-T
遺伝子 ID	
SwissProt ID	O75526
免疫原	ヒト hnRNP G-T 由来の合成ペプチド

背景

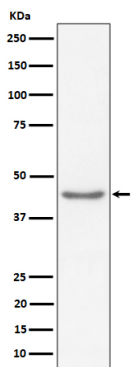
この遺伝子は、普遍的に発現する異種核リボ核タンパク質（hnRNP）の HNRPG サブファミリーに属します。hnRNP は RNA 結合タ

ンパク質であり、異種核 RNA (hnRNA) と複合体を形成します。これらのタンパク質は核内の pre-mRNA と関連しており、pre-mRNA のプロセッシングや mRNA 代謝・輸送のその他の側面に影響を及ぼすと考えられています。すべての hnRNP は核内に存在しますが、一部は核と細胞質の間を往復しているようです。hnRNP タンパク質はそれぞれ異なる核酸結合特性を持っています。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、RNA に結合する 2 つの RRM ドメインを有しています。この遺伝子はイントロンを持たず、プロセッシングを受けたレトロポゾンに由来すると考えられています。しかし、多くのレトロポゾン由来遺伝子とは異なり、この遺伝子は擬遺伝子ではありません。コードされるタンパク質は HNRPG タンパク質および RBMY タンパク質と類似しており、減数分裂前期における HNRPG タンパク質の機能を代替するか、生殖細胞特異的なスプライシング制御因子として作用することが示唆されている。この遺伝子は主に減数分裂精母細胞の核に局在する。この遺伝子は常染色体性男性不妊症の候補遺伝子である。

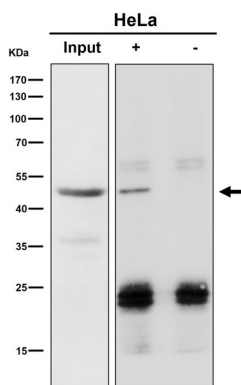
研究分野

-

画像データ



HeLa 細胞溶解物中の RBMXL2 発現のウェスタン プロット解析。



1:50 希釈の抗体を使用した免疫沈降 (IP) 分析。(1:1K 希釈の wb)